

# 長岡市長賞

## 本当の意味での町おこし

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 大森 溪

「アナザーワールド」つまり現世界とは別のもう一つの世界。実はこれは未来どころか、今存在していると考えられています。もし、その世界に納税の制度がなかったら、税金のない世界があったら、どんなに楽だろうかと考えてしまいました。私いや私たち中学生にとって一番身近であるだろう品物の「消費税」は買物をする時の値段の計算を複雑で面倒にしますし、消費税がない方がその場では安く済みます。しかしそれはその場であって消費税がなくなつた分、多額の税金が別のところで課せられる、という事実をはっきり知つたのは夏休み前の租税教室での事でした。その事実の具体的な例というと、私たち学生が使う教科書です。それは書籍であるにも関わらず学校に通っている人であれば誰でも無償でもらうことができます。これは税金のおかげだということを教科書の裏表紙を読んで実感しました。ほかに公共の場である、図書館や私が住む長岡市にある「アオーレ長岡」、病院の支払いを国が七割負担してくれることなど私たち国民が納税をする代償としてすごしやすい場所や勉強に必要な物、支払い金額などを提供してくれます。もし税金がなくなつたら教科書の代金を自分で払わなければならないし、まちの憩いの場も

なくなってしまう。また、警察や消防署を呼ぶことにも多額の金額を求められてしまうのです。そうならぬよう税金によって私たちの「あたりまえの幸せ」をつくり出していると思います。

しかし、そんな、国民の生活のバランスを保ってくれる税金にも気安くうなずけない一面があります。ここからは私の税金への反論にきこえるかもしれないかもしれませんが、一市民の意見として書いてもらえればありがたいです。

それは税の使い方についてです。単刀直入に長岡市のトイレやガードレール、外灯などの設備が不十分だと思えます。図書館のトイレは使いづらいし、夜に外灯がない道を歩くのはとても怖いですが最も不十分なのはガードレールが少ないことです。私の家の近くに土手と田んぼがあり、よくそこに沿った道を通るのですが、ガードレールがないので一歩踏み外せば転落しそうな危険な場所です。ましてやそこには外灯もないため夜はいつそう危険です。ほかに長岡にはそのような場所がたくさんあります。それなのに市役所である「アオーレ長岡」は誰が見ても立派で、多額の税金で建てられたと聞いたことがあります。観光で長岡駅を経て長岡を訪れた人に長岡の魅力をインパクトのある建物で伝え、町おこしをしたいという思いからだと思えますが、それはあくまで見かけにすぎません。つまり税金をかける場所がまちがっていると思います。実際に「アオーレ長岡」に長岡の魅力を感じて長岡に住み始めたが、住み心地が悪いと言っていた人もいました。これでは町おこしの「ま」の字もありません。本当の意味での「町興し」とは何か、ご検討お願いします。